

京都大学における Sakai による研修支援環境の現状と課題

外村 孝一郎¹⁾, 西垣 昌代¹⁾, 梶田 将司^{2,3)}

1) 京都大学 企画・情報部

2) 京都大学 情報環境機構 IT 企画室

3) 京都大学 学術情報メディアセンター

tonomura.koichiro.8c@kyoto-u.ac.jp

Current status and challenges of e-Learning Training Support Service using Sakai at Kyoto University

Koichiro Tonomura¹⁾, Masayo Nishigaki¹⁾, Shoji Kajita^{2,3)}

1) Planning and Information Management Department, Kyoto University

2) Institute for Information Management and Communication, Kyoto University

3) Academic Center for Computing and Media Studies, Kyoto University

概要

京都大学情報環境機構ではオープンソース学習支援環境 Sakai を授業支援だけでなく、全教職員・学生を対象としたコアコンプライアンス教育にも広く提供しており、新入生の e-Learning 研修などにも利用している。本報告では情報環境機構で提供している e-Learning 研修支援システムの現状と課題について述べる。

1 はじめに

京都大学では、全学的な観点から情報基盤の整備を行っている情報環境機構により、全学的な学びをトータルに支援することを目的に、2013 年度から、オープンソースの Sakai をベースとした学習支援システムを導入し PandA(People and Academe) のブランド名で全学の授業に提供している [1]。

また、同じソースコードをベースに、全教職員・学生を対象としたコアコンプライアンス系の研修や部局が個別に行う研修を対象とした e-Learning 研修支援サービス「サイバーラーニングスペース」(Cyber Learning Space:CLS) を 2012 年に立ち上げ、全学に提供している (図 1) [2]。

Sakai は Apereo Foundation が中心となって開発を進められているオープンソースの学習管理システム (Learning Management System) で、研究大学を中心に広く採用されている [3] が、授業支援を目的としたシステムであるため、e-Learning 研修に利用するための機能が十分であるとはいえない。

そこで、研修支援サービスの展開にあたっては、e-Learning 研修に必要とされる機能を本学独自に追加実装を行った上で提供している [4]。

本報告では、e-Learning 研修サービス「サイバーラーニングスペース」のための Sakai の本学での利用状況と追加した機能について報告する。

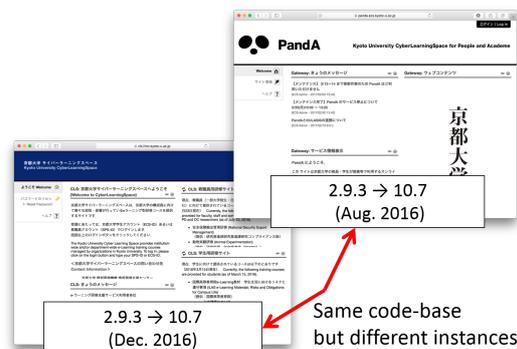


図 1 研修支援 CLS と 学習支援 PandA

2 研修支援サービス「サイバーラーニングスペース」

サイバーラーニングスペースは本学の教職員、学生等を対象に実施される次の (1) から (3) の研修を e-Learning 型研修として実施するための支援サービス

として提供している。

1. 全学機構が全学の教職員又は学生等に対して実施する研修。
2. 事務本部に置かれている部、課その他これに相当する組織が全学の教職員又は学生等に対して実施する研修。
3. 部局が当該部局の全教職員又は学生等に対して実施する研修

平成 29 年 9 月現在、以下の研修で利用されている。

- 安全保障輸出管理研修 (研究推進部)
- TA の着任前研修 (生命科学研究科、工学研究科、医学研究科、薬学研究科)
- 学部新入生向けコンプライアンス研修
- 治験/臨床研究 e-Learning
- 医療安全教育研修 (準備中)
- 動物実験教育訓練研修
- 霊長類取扱教育訓練研修
- ライフサイエンス研究関連法令基礎研修
- 派遣留学生のための健康と安全に関する研修
- 受入留学生のための健康と安全に関する研修

サービスの利用に当たっては、本学の情報環境支援センターを通じて

- 教材を作成するためのコンサルティング
- システムへの教材登録
- 受講対象者管理, 受講状況管理

などの支援を提供している。

3 研修支援のための Sakai の実装

大学の正規の授業を目的とした e-Learning 学習支援環境と、コンプライアンス研修のための e-Learning 研修支援環境では、以下に示すような違いがある。

授業支援 e-Learning

1. 受講者は授業期間中を通じて継続的に利用
2. 授業の進捗により異なるコンテンツを提供
3. 授業の履修者のみが受講

研修支援 e-Learning

1. 受講者は研修受講時のみ利用
2. 研修受講時にコンテンツを一度に提供
3. 部局の指定する対象者が受講 (教職員・学生)

そのため、求められる機能も異なっている。

Sakai は、CMS(Course Management System) あるいは LMS(Learning Management System) と呼ばれるシステムであり、基本的に大学における正規の授業支援を対象とした e-Learning システムであるため、そのため、教材作成やオンラインテストを実施するなどの研修支援でも利用可能な機能を搭載しているが、受講者の管理, 受講状況の確認, 修了証・受講証を発行する機能など 研修型 e-Learning の機能が十分とはいえない (表 1)。

表 1 学習支援・研修支援に要求される機能

機能	学習支援	研修支援
教材作成	○	○
オンラインテスト	○	○
成績簿	○	○
課題提出	○	
資料配布	○	
成績確認	○	
受講者管理		○
受講状況確認		○
修了証・受講証		○

そこで、本学では研修支援に必要な機能として 研修支援ツール Training Support Tool を実装した上で、サービスを提供している (図 2) [4]。

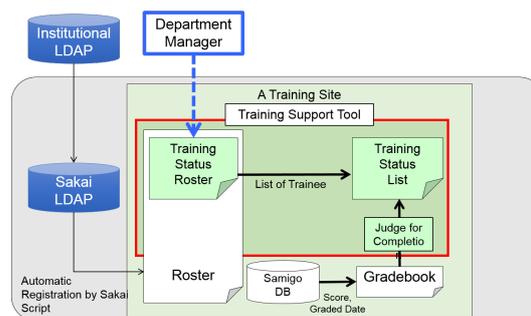


図 2 研修支援ツール

3.1 受講者名簿管理

研修支援サービスでは、研修を実施する部局が、それぞれの研修の受講状況や修了率の把握を求められるケースが多い、これらの情報の把握のため、部局担当者が受講者名簿管理機能を追加した (図 3)。

3.2 受講状況一覧

コアコンプライアンス研修では、ある e-Learning 研修の受講のためには、別の e-Learning 研修の修了

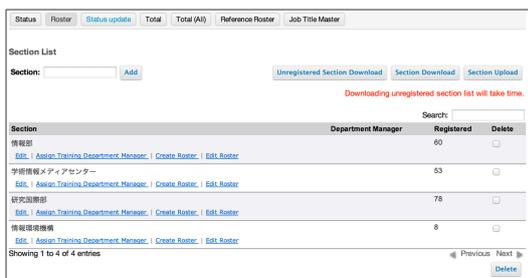


図3 受講者名簿管理

が必要となる場合がある。そのため、受講者は自分が登録されている研修の受講状況や修了状況を把握する必要がある。この機能に対応するため受講者名簿管理機能を追加した(図4)。



図4 受講状況一覧

3.3 修了証・受講証出力機能

受講者が自分の受講状況を確認するとともに、必要に応じて修了証をPDFによる出力する機能を追加した。(図5)。

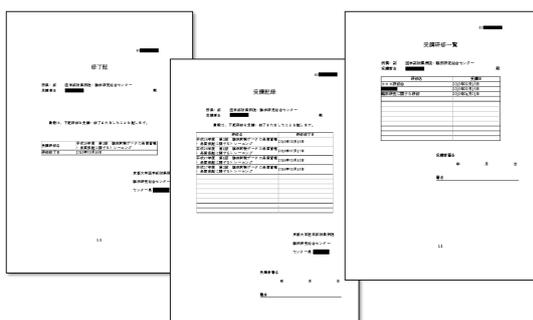


図5 修了証・受講証の出力

4 まとめと今後の課題

本報告では、京都大学情報環境機構が提供している研修支援サービス サイバーラーニングスペース CLS の利用状況と利用にあつて追加を行った機能について報告した。

現在、学習支援サービス PandA と 研修支援サービス CLS はそれぞれバージョンアップの時期は異なるものの、Sakai 10.7 でサービスを行っている。平成29年9月現在のSakaiの最新バージョン11であり、本年度中にはSakai 12のリリースが予定されている。これを受けて、本学のSakaiもバージョンアップを検討中である。

今後の課題として、現在、授業し援用と研修し援用では別のサイトとしてSakaiを運用しているが、運用コストの圧縮の観点から、システムの統合化を検討している。

参考文献

- [1] 外村孝一郎、京都大学におけるSakaiによる学習支援システムの導入と運用、大学ICT推進協議会2013年度年次報告、2013
- [2] 梶田将司、京都大学における全学・部局研修用eラーニング研修支援サービスの現状と課題、情報処理学会研究報告教育学習支援情報システム(CLE)、2017
- [3] Apereo Foundation. <https://www.apereo.org/>
- [4] Shoji Kajita, "Sakai Training Support Tool and Experiences for Institution-wide and Department-wide Training Programs at Kyoto University", Open Apereo 2016 Conference, New York, NY, U.S.A., May 24 - May 25, 2016